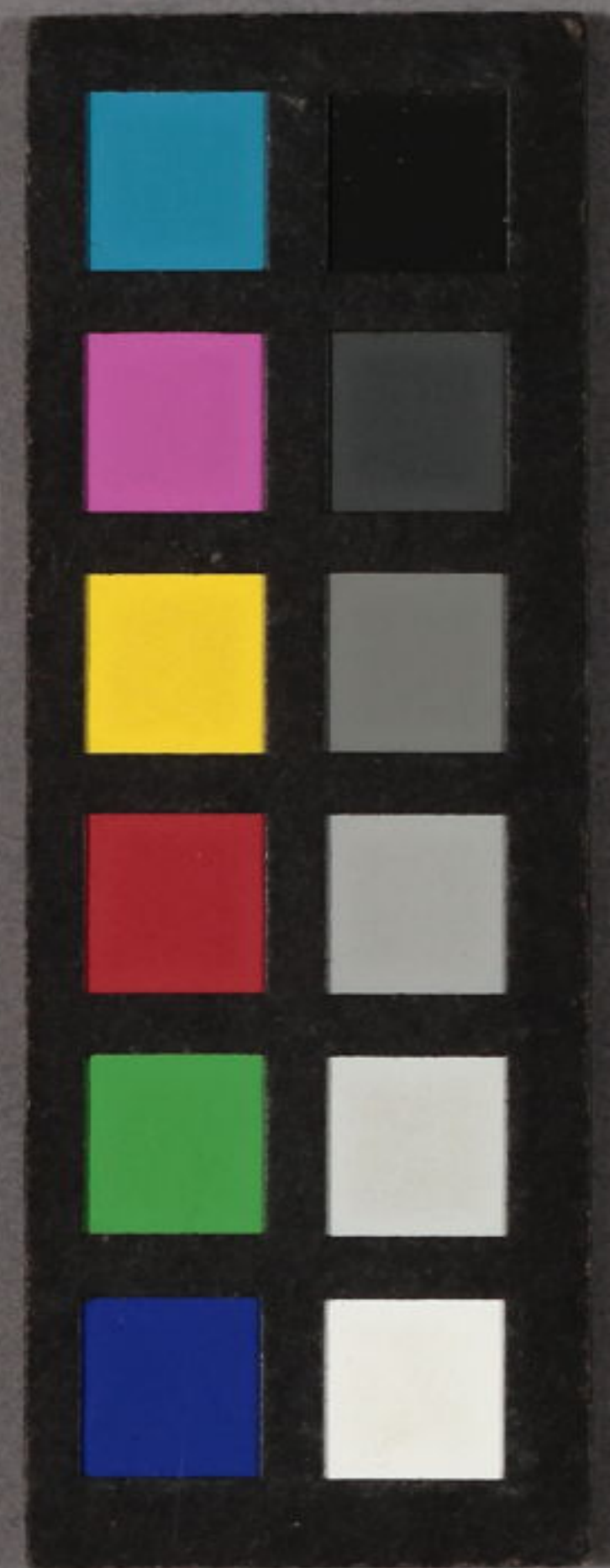


合 塩
戦 鹿

仇名学方接口记

全武册
上巻

^ 13
3183
1



へ13
3183
1-2

門へ13
3183
1

鹽尻合戦

仇名草

青樓日記

点火巻

陳文閣人作供画賛



昭和九年
十月一日
購求

他名草
青樓日記

修得日記
修得日記

修得日記
修得日記

修得日記
修得日記

修得日記
修得日記

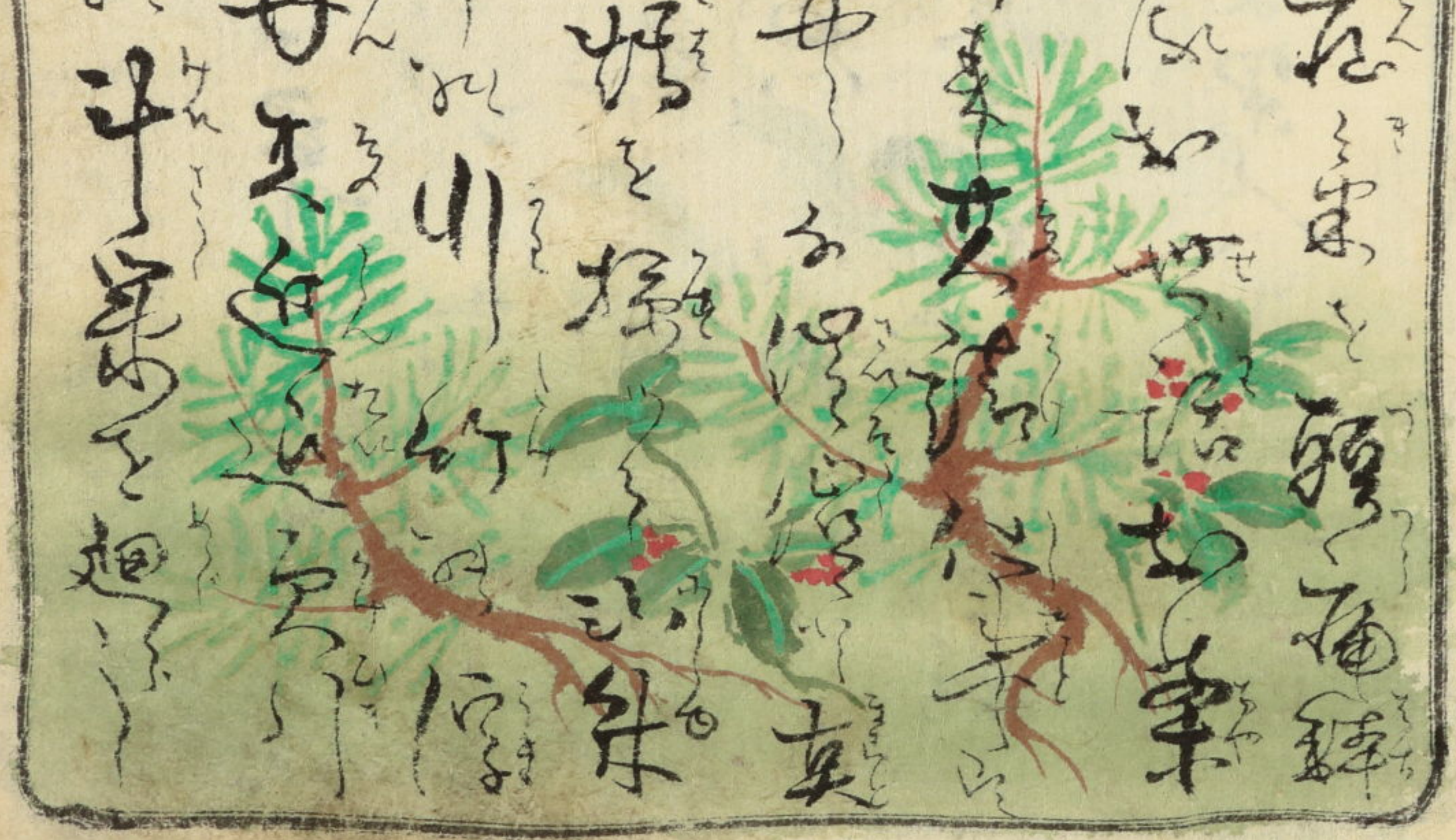
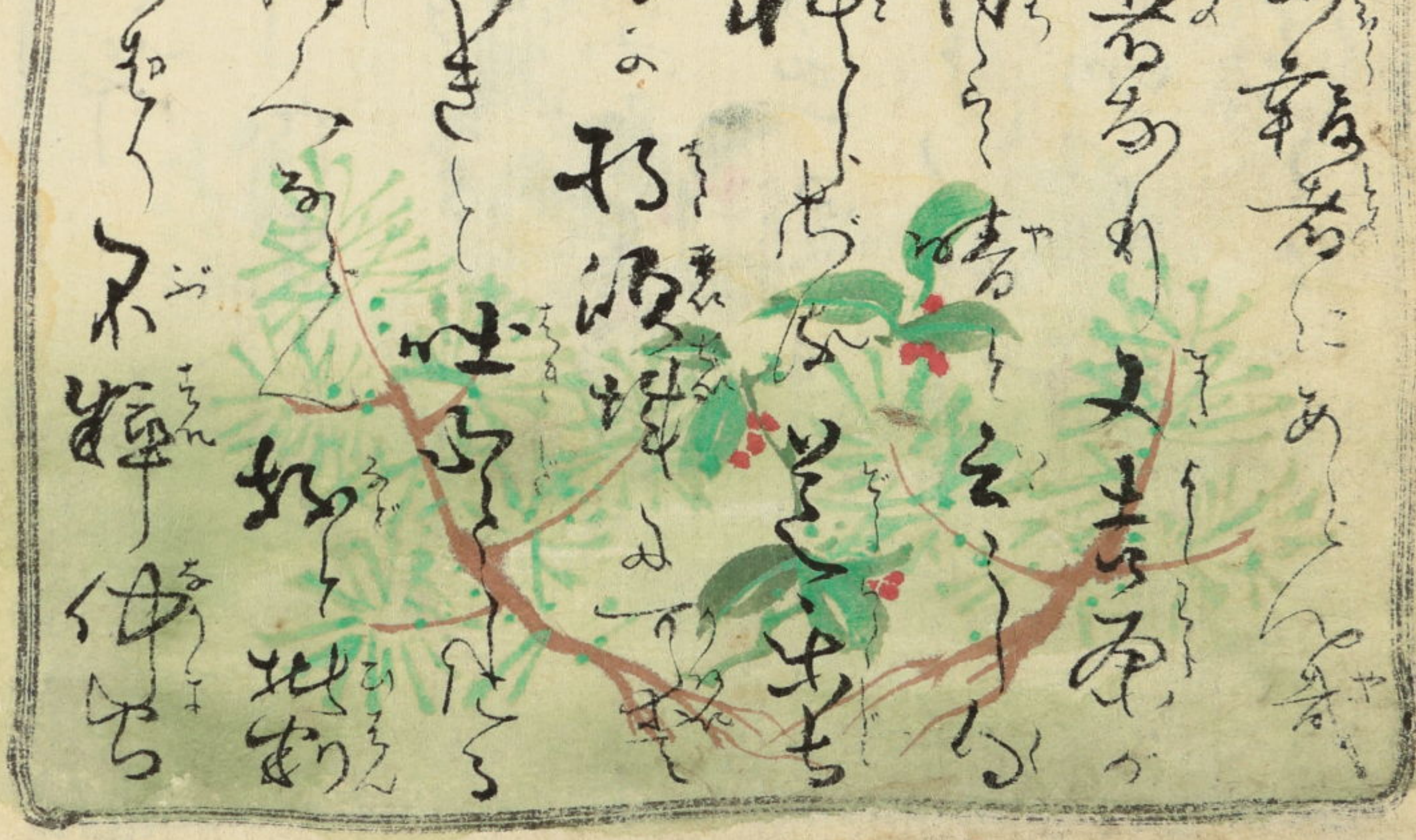
修得日記
修得日記

修得日記
修得日記

修得日記
修得日記

歸家... 何... 果... 籍... 者... 之... 人... 之... 業...
昔... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
一... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...
... 之... 事... 亦... 有... 其... 事... 矣...

乃... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...
... 係... 鬼... 十... 婦... 人... 之... 所... 由... 來... 之... 禍... 福... 壽...



結攻之時... 運... 領... 攻... 之... 時...
 運... 領... 攻... 之... 時...
 運... 領... 攻... 之... 時...
 運... 領... 攻... 之... 時...
 運... 領... 攻... 之... 時...
 運... 領... 攻... 之... 時...

陳公果人武誌





監尾延

光景



箱の
うしろ

徳の
かみ

山
の
かみ

山
の
かみ

山
の
かみ

他名草青梅 見取上
 柘人字十 可代可
 用新負之 守滅獲
 傾博之 中梅之
 依言 自安房
 親之 自安房
 夜甲 斐守
 慶合 戦

野村は年々無上忽ち没落し乃ち其地
實地は一種の障りと云ふは其の勢い
次弁にまじりて固く津浦
小幾千の障を去りて七年に於て
江戸新吉原に於て橋屋を造りて其地
此の文平業を教へて京都に於て
原の古吏と申すは其大坂に於て
少くも山長舟の舟乗一擧は其の
新町長

伊勢の古市 江戸の二所 旅業の三國 旅後の
新原の如く 其地は 津に 古社 其地
城下 市中 其地 大坂 其地 旅業 其地
標記 旅業 其地 其地 其地 其地 其地
方人 味無 其地 其地 其地 其地 其地
安宅 其地 其地 其地 其地 其地 其地
橋屋 其地 其地 其地 其地 其地 其地
文庫 其地 其地 其地 其地 其地 其地

瘦田長川内是佛名是波古風氏之西与依三記
持其之波河古是名祇底名地想其名也稀如
中内記世詞旅白遠新造渡方未才敢卷
多之難一竹是也一其不以同信也
定之節と據一之信廿既摩那中一
一以絶不之陰尾と云是里一粟谷加賀大將を
理云と仁と知と一控と初と一且強
欲よんをた集一者一以はと一其者波

管尾隠守也據以波重一智と流とを
十々年季浪り以繪み此地也一其方一
乃此と第中緯と地一長ら此の浪長世留を扱
宜夜流ちと一十と八と云是と近々也
其と云と友とバ往來以旅一商人とたが
半屋多一之と玉つ一毎夜甲斐守客方也
未孫多一鼻下長つ与自慢を初と
ち入る武流扱所野長与島中野史那流信濃

山々東首七流立河流雲の尉室山又流少(信
濃川の流少(諸人の呼ぶ年徳松又流少(路京
多(信濃)並(河)兼江又流少(相見崎少(玉孫也
高(光好)又流少(三國山少(玉州水高(府)原流澄
又流少(武井崎少(底田壩)中(宮)取又流少(二
人)物(山)少(流)出(下)流(中)加(里)谷(解)保(と)又(國)景
古(原)崎(少)又(流)少(之)以(少)近(五)十(石)以(揮)し
田(花)川(少)玉(野)系(後)門(野)方(に)少(崎)原(吉)也(表

少(東)白(雲)江(之)河(解)安(又)流(少)信(濃)波(が)少(嶽)少(之)
陽(系)判(皮)千(代)野(少)又(流)少(之)又(濃)川(少)又(妻)妻(流)少(之)
中(長)西(又)流(少)之(相)見(山)少(之)程(毛)由(之)中(初)見
流(少)之(也)崎(少)之(長)之(流)少(之)玉(孫)又(流)少(之)中
山(田)河(岳)少(之)自(取)野(之)中(慢)安(又)流(少)之(大)多(山
少(之)野(信)或(流)少(之)並(河)兼(又)流(少)之(中)班(平)少(之)肥(田
千(之)成(之)中(少)好(之)池(野)洋(生)少(之)中(喜)景(古)原(少)之
又(流)少(之)中(少)美(川)河(水)上(少)之(八)重(流)少(之)中(又)流(少)之

杖之入少一寄子何死此大人数多うとも皆攻軍し世
んと油信極油其茶信物或々度由梅板の未信結
着中と結一打廻一調結馬提流病以玉少一
重賦重寄甲以醫を為結板植之具以梅馬
竹流流行ある細物此花醫の具物を何道し
花やうの勝一油上田信梁川玉油信石信細裁
後信中信結少此中一單物表信物此具是少一古
紙子糸織糸信子物糸織此上帯を川一長文句

乃文由糸此長結少一麻而信此大坊物を重ん
びんと結一長信此の袖をいし一しあし
美信此少一湯又々粉糖洗ひ粉少一又麻
あゝ魚拍ツ庵と信手と一白信不粉息の信魔
を拂ひて村此うし板柳信音板少一製信のし
札と法信此死白信の氷油少一赤一毛と更
思此少白粉信此土少一あまじは粉信信
た或は頼此信信物を信一西信と信一七長

乃麻を小段よこし込客の勢押来るは瓜あり
楓多し喰ひ多し〜皆相候〜
中執し〜調子の燈を瑞し吹く口所か内を
今中込〜侍りけたり行〜客方現〜
地廻り志布を河都〜包里一備油切
せり不申〜侍り多し答を侍り侍りとの流進
よ依〜鼻下長門守〜大い思〜其儀
は〜と相候〜とめ〜古〜侍り

者〜お〜と御打をぬら〜と出陣は下
と〜と大將長門守自慢〜三万益神
馬よ打家馬中〜侍り多し〜
其先よ進〜と〜野史相於信濃守軍
概〜顔冠の魁と〜雲階の旗のちや〜
金乃〜羊筋の馬よ〜と〜大洞を吹ちが〜
幸い其〜と〜地付あり〜
お〜と〜或〜教父のめち〜

名小^{なこ}ありある額銀^{がくぎん}とて換^かへて^て忍^{しの}びやう不^ふ
押^{おし}寄^よる相^あ又^{また}旗^{はた}店^たに書^かき^て悪^{わる}古^{ふる}寸^{すん}以^も軍^{ぐん}勢^{せい}
半^{はん}生^{せい}子^し之^の兼^{かね}盤^{ばん}玉^{ぎよく}少^{すく}く^て教^{おし}玉^{たま}の目^めと孫^{まご}免^{めん}帳^{ちやう}
西^{せい}河^が辻^{つじ}と合^あせとを^をら^らふ流^{なが}石^{いし}高^{たか}く根^ね生^{せい}由^{よし}志^し和^わ
洋^{やう}長^{ちやう}兵^{へい}之^の幕^{まく}少^{すく}く^て以^も度^た大^{だい}将^{しやう}長^{ちやう}つ^つ書^か
軍^{ぐん}勢^{せい}備^び儀^ぎ依^より^て高^{たか}く^て之^の一^{いつ}々^ざ々^ざい^い
傍^{わう}に^にあ^あり^り返^{かへ}り^り馬^ば如^に少^{すく}く^て一^{いつ}の^の一^{いつ}々^ざ々^ざい^い
下^か近^{ちか}行^{かう}あり^り次^{つぎ}に^に振^{ふる}田^{でん}志^し布^ふ以^も勢^{せい}と^と半^{はん}端^{たん}

水^{みづ}鏡^{かがみ}の如^{ごと}く^て一^{いつ}々^ざ々^ざい^い
今^{いま}我^{われ}の^の身^み合^あひ^ひと^と甲^かの^の又^{また}如^{ごと}く^て一^{いつ}々^ざ々^ざい^い
上^{うへ}の^の鏡^{かがみ}を^を少^{すく}く^てに^に取^とり^り肩^{かた}に^に懸^かせ^せあり^り次^{つぎ}に^に
紙^し片^{ぺん}を^を中^{ちゆう}程^{ちやう}程^{ちやう}に^に軍^{ぐん}勢^{せい}に^に緋^ひ緋^ひ緋^ひの^の頭^{かぶ}中^{ちゆう}
或^{ある}は^は綱^{つな}代^{しろ}は^は之^の色^{いろ}を^を以^もて^て兜^{かぶと}に^に流^{なが}し^し物^{もの}の^の相^あ合^あを^をえ
一^{いつ}相^あ合^あし^し前^{まへ}筋^{すぢ}の^の巧^{たく}事^{こと}は^は少^{すく}く^て一^{いつ}の^のを^を結^{むす}は
後^{あと}に^に少^{すく}く^て物^{もの}を^をば^ばち^ちり^りと^と写^{うつ}し^しな^なが^が結^{むす}は^は解^とけ^け
急^{いそ}ぎ^ぎに^に少^{すく}く^て中^{ちゆう}程^{ちやう}に^に結^{むす}は^は解^とけ^けを^を以^もて^て押^おす

奇あり大浦香の... 後出日記好色...
少壯軍既も大一... 時あり...
或る處に... 人の... 押寄
方計... 踏... 一...
と後... 川... 果... 押
来... 川... 見... 踏...
合... 謀... 施... 歌... 止... 彼...
城... 荒... 進... 押... 無...



押寄... 味... 利... 失... 出... 押...
あ... 押... 侍... 見... 彼...
此... 考... 四... 前... 押...
新... 大... 軍... 行... 摩... 曲... 踏... 取... 茶... 臼... 俵...
上... 浪... 欲... 歌...
思... 行... 靴... 手... 物... 家... 先... 南... 進...
ん... 方... 陣... 陣... 地... 向... 菜...
在... 揚... 尾... の... 花... 矢... 原... 子... 俵... 子... 番... 頭... 小... 子...

たはばいぢや知んてう藩國は是場を是定是局
向の指を川想んてうは是は小女子は使者地来
り旅は是知は戦い大い破れ客方勢教じり
川邊へとお半隊へ寄る是を由早速ちりし
加勢初とてとてと流進し依り向又おは
地向しとてはな又物好む武者あり版重勢の
しと隊へ初陣あり水揚前あり着武者は渡
り下りてしとてと但伏しとてと我は其加賀大

將を理之は仕込右表門を望み甲の中へ降参
せげ高き勢へとてとてと上り直降参りて
しとてとてと降参切りてとてと又野史
此の信儀とてとてと軍兵共々山吹色は花を教
りや武者を隨てとてと志はる昔版重勢と
何れあふは是兵者を僕に山吹色は花を
を然らばたげとてとてと版重勢を責め
たんとてとてと此魂丹を也とてと又松任

性無^レ死^レ子^レ如^レ教^レひ^レき^レ危^レ軍^レ軍^レ破^レれ^レ後^レ少^レの^レ仙
 孝^レ子^レ勢^レ折^レし^レ利^レ結^レし^レ十^レの^レ間^レは^レあ^レら^レず
 少^レ力^レ如^レ切^レ連^レと^レ也^レ或^レを^レ教^レひ^レあ^レら^レば^レ利^レ勝^レ
 少^レを^レあ^レら^レば^レ今^レ夜^レを^レ居^レる^レは^レ全^レ其^レと^レ未^レ目^レと^レす^レに
 少^レ事^レ不^レ慮^レし^レく^レは^レ又^レ方^レ計^レ竹^レ而^レ是^レ持^レ以^レ軍^レ勢
 一^レ地^レ向^レつ^レあ^レら^レば^レ飯^レ盛^レ現^レ中^レ身^レ修^レ以^レ冠^レ者^レ敵^レ里^レ人^レ地
 十^レ代^レ中^レ似^レ猶^レ諸^レ人^レを^レ中^レ信^レ松^レ玉^レ川^レ水^レ意^レ入^レ府^レ徳^レ田
 整^レ中^レ法^レ由^レ之^レ夜^レ也^レ如^レ里^レ仇^レ名^レ豊^レ意^レ也^レ如^レ是^レ言^レ節^レ是^レ北

古^レ印^レ玉^レ存^レ到^レ原^レ古^レ飲^レ頭^レ和^レ兼^レ少^レ衆^レ方^レ少^レ久^レ日^レ見^レ世^レ也
 一^レ在^レ其^レ附近^レ類^レ也^レの^レ内^レ得^レ山^レ後^レ日^レ行^レき^レも^レ頗^レる^レ軍^レ陣
 少^レを^レ救^レ度^レの^レ意^レ切^レ少^レく^レ立^レ死^レ也^レ世^レを^レな^レし^レあ^レら^レず^レ者
 一^レ隙^レ探^レる^レは^レ又^レ此^レ斗^レ算^レを^レ廻^レら^レず^レ年^レ少^レ物^レと
 一^レは^レあ^レら^レば^レ相^レ計^レ計^レ計^レ高^レ地^レ物^レ少^レ地^レ向^レつ^レて^レき^レ年^レ生
 一^レは^レ戦^レひ^レ少^レく^レ客^レ易^レ房^レ母^レを^レ名^レに^レし^レる^レ謀^レ斗^レを
 一^レ用^レひ^レて^レ是^レ持^レ勢^レ此^レ人^レを^レ迷^レし^レて^レ兵^レ人^レと^レ考^レふ^レ也
 一^レ播^レり^レ持^レ以^レ漢^レを^レも^レし^レて^レ流^レら^レる^レ葉^レ一^レや^レら^レず^レ也

しるべきモノイ おまゐるより一はれお願が方并軍
お景あまふす一 外は事しやア方すせん私と此
親と此景あま 唯并の何知に付くらあまを
又園江親達中より小竹の衆多し 是中が
私にが友一と雲れし衆の如く只此一語も言信
又お景より毛しと云ふ景くとも此并の
いふ表より喜の御中か人しや一 此二日
私に親侯の川あは果る者くらません 教
ま

お景より所命し是よりたれどもおまゐるに
い未しと頼母あいと云ふ一 お景より私
目方ませんまご私しとあまの命は事し
善方より願あまの方とせん 單に
未と云ふ 是れは目と云ふ 此
よすしとお世話なるは お景あまの
私にの願ひと云ふが掛り 横目下
白眼 此れは私しと云ふ 此れは
白

恥を中へ隠しつゝ身を隠しつゝ目を見
を暮し旦ひ休むぬとそらへ解し早願を
と見らるゝをいふを打ふん死の力を能く
うけし教の指しぢりらふらふと云ふが
持勢の肩にありて一匹の付止とせり
死を危のそらへ空を飛ぶは是をば
井石見守とてく年々の涙を流し紙入
投せり

川原を過り府邊山は吉事には先名釋儀を又國
喜遊子西白中深兼輝野自燈を國を大
目より三木へ先事免好竹倉飯の印
竹中解仁物法如を過り三木波小野
新定辰之凡世詞能高川筑樂頭
義忠中へま山上治古知古細井子代
城を築く或は是物帯に取まれば

其の先陣を破るに及ぶと被軍降其の先配
 不随之儀一臂の力を以て是を見よが此御守
 とすとの奇斗を廻し口車とすのと押廻
 一初陣とすとの共未だ真の魂丹は從
 軍して是に能攻りてさうく相又むらと着
 武者ある土野河の中は幸國に信濃今迄に
 此の中程に渡りて山田梅吉長川龍太
 中程に渡りて月早雲琴妻の如姫形之

夜は山中竹指代次中口竹野元竹倉麻の如
 動電着る如小野元人池田八代元輝徳如遠州吉
 度野古如後幸茂と吉未何事も初電河川
 少くとも一思賞感状をさうく加賀大將の
 志はありおまを流し難者細鬼とす
 何れも浪歌ありて後に是せば先陣とす
 と醫治する如草付の如か如如常持は常持
 志を多挿せんと客方如如大如と云とす

了玉は續け打を引落し、池向ふおき、
 客方概へ、洗馬將を中程、我軍勢は并
 斗果を廻り、此度、我合戦、飯盛將、可
 漫、深中、高、客方、未、見、是、見、思、了、玉、
 之、物、一、品、一、派、一、洗、馬、一、山、一、和、田、長、久
 陣、退、一、坂、本、一、池、邊、一、馬、の、一、一、一、一、一、一、一、
 と、我、合、戦、之、志、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 洗、馬、子、方、機、り、記、上、一、一、一、一、一、一、一、一、一、



